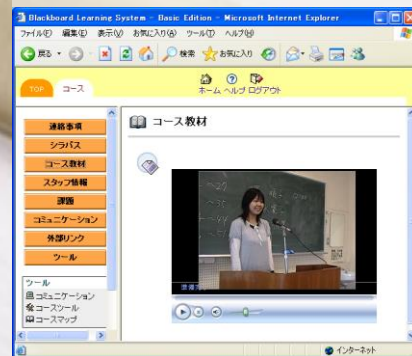


表現文化学科ってどんな学科？

「生きるための学び」を支える 実感教育・実践教育プログラム

- 人の意思や感情、想像力は文字・声・身振りなどの形で表され、コウカン（交換／交感／交歓）されます。
- 表現文化学科では、実感・実践に軸足を置いて、**日本の言語と文化**を多角的に分析する能力、的確に発信する能力を修得します。これによって、絶えず変化する現在を見きわめ、主体的に未来を切り拓くことができます。
- 「就職活動のための勉強」ではなく「生きるための学び」を選びませんか。「生きるための学び」は、就職活動を、職場をしなやかに乗り切る力も与えてくれます。

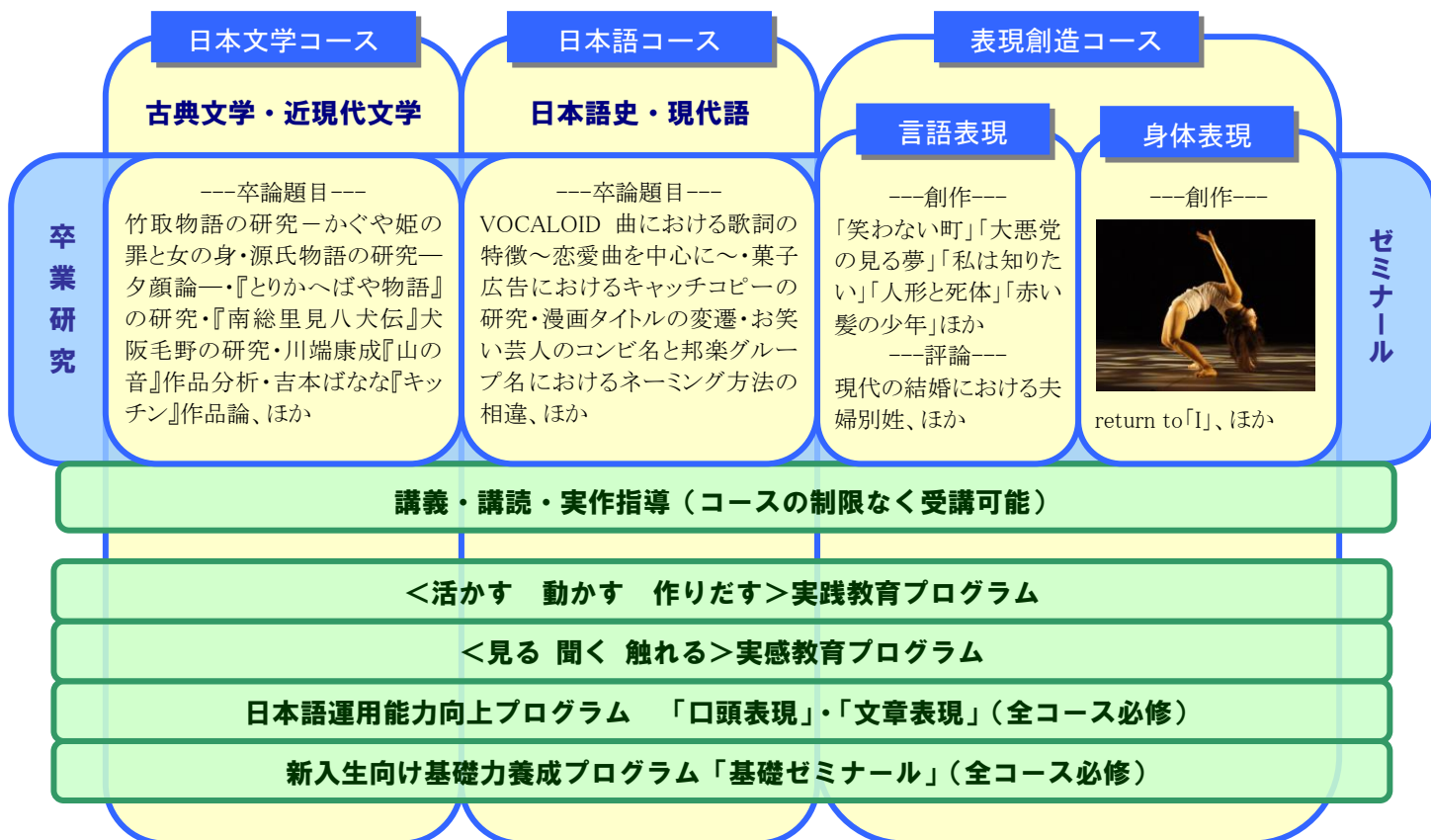
日本語運用能力向上プログラム



在学生・卒業生の活躍ぶりも掲載！

本学ホームページも御覧ください。
<http://www.shujitsu.ac.jp/>

ゆるやかなコース制



研修旅行（新入生対象）

奈良や京都を訪れ、寺社の文化遺産や博物館を見学して「本物」に触れる新入生研修旅行。

2016年度は当麻寺等を拝観して奈良国立博物館で国宝の「信貴山縁起絵巻」全巻を一度に鑑賞する史上初の機会に恵まれました。



学外研修（新入生対象）

少人数クラスで古典芸能・現代劇・映画等を鑑賞します。

文学散歩

郷土の風土・文化を知るためのバス小旅行です。2015年度は神戸市立博物館で特別展「須磨の歴史と文化—受け継がれる記憶」を見学し、須磨寺を訪れました。



実地調査（授業科目）

2015年度は、紀伊半島南部の熊野三山をめぐり、参詣路を歩きました。悪路を踏んだその向こうに救済があると、本当に人々は信じていたのか——実際に踏んでみると、わからないこともあります。

学術講演会（表現文化学会主催）

これまで、ねじめ正一氏（詩人・作家）、清水義範氏（作家）、三遊亭金時氏（落語家）、今井勉氏（琵琶奏者）、片山伸吾氏（能楽師）、備中神楽の北山社などをお招きしました。写真は2015年度、詩人の伊藤比呂美氏。



「人と出会う 2016」スタート

実感教育プログラムの一環として、「人と出会う 2016」を始めました。第一線で活躍する人と出会う機会を提供します。第1回は「平安仏画の常識に挑む」と題して安嶋紀昭氏（広島大学教授）・国宝の修理に携わる坂田雅之氏（坂田墨珠堂）をお迎えしました。また、表現文化学科での学びの成果を実践の場で発揮する「活かす・動かす・作りだす」実践教育プログラムとして、学生が「表現文化だより」の取材インタビューを行いました。



実感教育・実践教育を支える教員の学術研究・社会活動



松本潤一郎

フランス現代思想・欧米圏批評理論を専門とする。共著書に『ドゥルーズ——生成変化のサブマリン』他多数。フェリックス・ガタリ『リトルネロ』（共訳）／ベルナール・ラマルシュ＝ヴァゲル『すべては壊れる』（共訳）など翻訳書も多数。



岩田美穂

現在、中心的に行っている研究は、「統語構造変化における歴史的・地理的バリエーション研究—キリ・キリを資料として—」（科研費）。一部の調査では、学生と共に方言調査を行っている。

岡本悦子

専門は舞踊教育。「晴れの国岡山国体」開会式演出の主力メンバーで、ももっち体操の振付も。2010年岡山国民文化祭洋舞フェスティバル作品を制作統括。岡山県現代舞踊連盟顧問。岡山県女子体育連盟会長。「第5回岡山芸術文化賞功労賞」受賞。



中崎崇

専門は日本語学。現代日本語、特に「終助詞」についての記述的研究を行っている。その他「外国語における語彙的誤出力の要因とその予防策—母語の多義性の観点から」（日本学術振興会科学研究費）の共同研究者として、日本語学の知見をいかに英語教育に還元できるかについても研究を行っている。



土井通弘

現在、岡山県や滋賀県などの文化財審議委員として文化財指定や、文化財修復の監督指導を行う。2007年京都・知恩寺での快慶作阿弥陀立像の発見は、マスコミでも話題になった。



川崎剛志

国文学研究資料館文献資料調査員として、これまでに正宗文庫（備前市）、真福寺大須文庫（名古屋）等の調査に携わる。また科研費研究事業「中世顕密寺院における役行者伝の包摂と正統化についての研究」（2016-18年度）の代表をつとめる。



入試に関する問合せ先（入試広報事務室）

電話：086-271-8118 メール：nyushi@shujitsu.ac.jp